

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年11月11日

1. BMJ:アメリカでコロナ、インフル、RSVのトリプルパンデミックのおそれ
2. 日本のインフルエンザ定点観測報告数

【松崎雑感】

コロナパンデミックでマスク、三密防止が徹底されたため、コロナ以外の感染症は激減していました。しかし、マスク着用と三密回避が守られなくなっているため、以前の感染症が再び増えることが懸念されています。CDCはアメリカの状況に警戒を呼び掛けています。

日本ではじわじわとインフルエンザが増えています。と言っても、まだ、平年の10分の1のレベルですが。コロナとインフルの感染が増えると医療崩壊（必要な平時医療が受けられなくなる）が起きます。マスク、三密防止続けましょう。

アメリカでコロナ、インフル、RSVのトリプルパンデミックのおそれ

Tanne JH. **US faces triple epidemic of flu, RSV, and covid.** **BMJ.** 2022;379:o2681. Published 2022 Nov 7. doi:10.1136/bmj.o2681

CDCは、アメリカがインフルエンザ、コロナ、RSVのトリプルパンデミックに見舞われていると発表した。

マスク着用と3密回避が実行されず、最新の二価ワクチンを受けた人々も少ないままである。

CDCは全米で季節性インフルエンザの流行が始まっていると報告した。

南東部から中南部にかけて流行が最多で、大西洋中太西海岸中南部がそれに続く。

これまでに二名の小児がインフルエンザで死亡している。

この冬にインフルエンザの患者が160万人、入院が13000人、死亡が730名発生すると推定されている。生後6か月以上の人々ができるだけワクチンを受けよう勧めている。

米国予防接種呼吸器疾患センター所長ホセ・ロメロ氏は「この10年間で最多のインフルエンザ入院が発生されると予想される」と述べた。

同時に、RSVも多くの地域で増えている。多くの小児は2歳までにこのウイルスに感染し治癒する。RSVの症状はインフルエンザの症状と似ているが、しばしば重症化と死亡が発生する。ワクチンは開発中であり、実用化されていない。

RSVはいわゆる未熟児や生後6か月以内の乳児で重症化リスクが高い。慢性肺疾患や先天性心疾患、免疫低下疾患、神経筋疾患など嚥下障害を持つ子どもたちで特に重症化リスクが高い。

RSVは細気管支炎や肺炎という重い呼吸器疾患をもたらすこともある。RSVに感染した生後6か月未満の乳児の1～2%は入院が必要となる。全米で毎年5万8千人から8万人が入院している。

喘息や心臓機能低下を持つ高齢者も重症化しやすい。

この数か月、新型コロナの感染者と入院はそれほど多くなっていないが、南部と西部では急増している。

ニューヨークタイムズの追跡記事によれば、ネバダ、ニューメキシコ、ユタの各州では、この2週間に感染者が50%増えた。

8州で入院が2割以上増えている。

死亡者は連日350名台となっている。

最近までBA.5が最多だったが、新たな変異株BQ.1.1 およびBQ.1の割合がこの2週間で3%から11%に増加中である。

【日本の定点あたりインフルエンザ報告数：厚労省データ】

(今年の第44週は11月4～11日)

元旦からの 週数	総報告数	昨年同期
44	270	23
43	153	20
42	106	13
41	97	10
40	68	10
39	51	5
38	78	3

ちなみに、コロナ前数年の11月はじめの総報告数は1千人から数千人でした。今年は、平年よりも、まだ一桁低いインフルエンザ発生数です。